

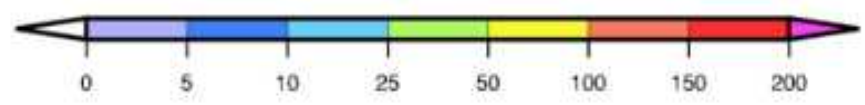
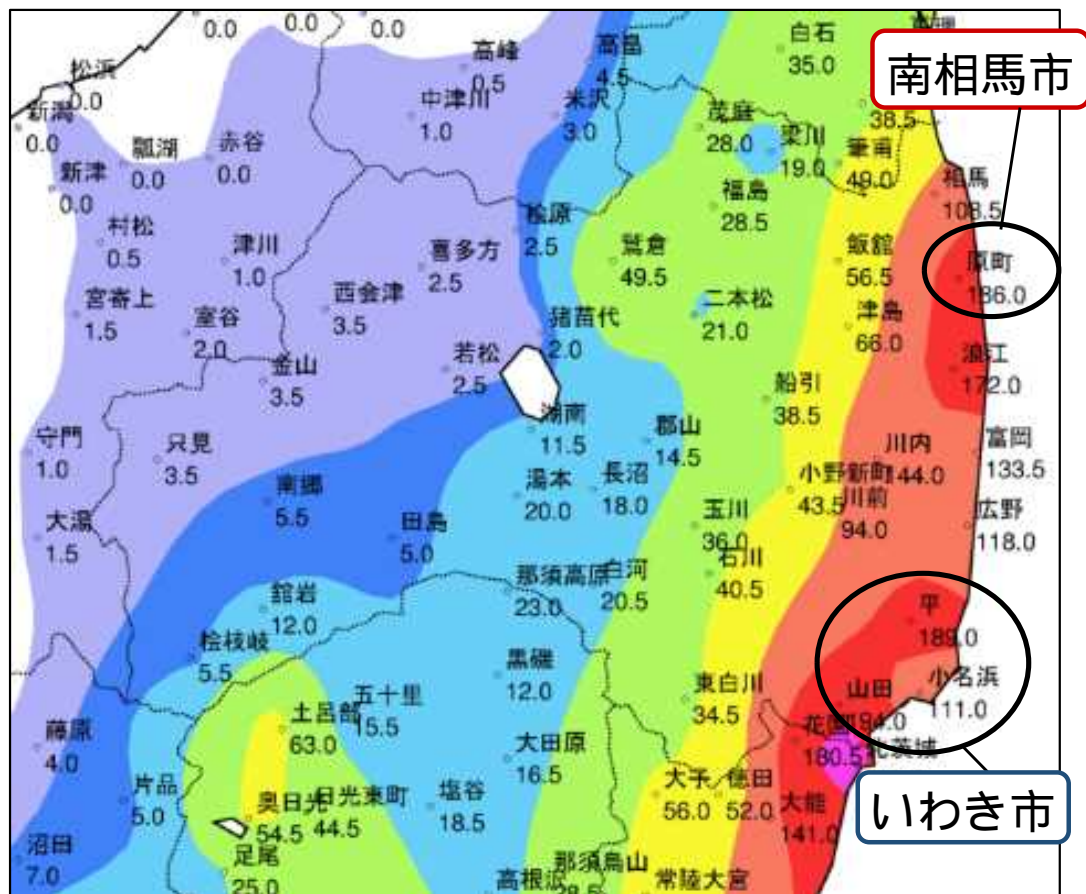
令和6年2月5日
災害廃棄物対策東北ブロック協議会セミナー

福島県の対応の振り返りと課題 (令和5年台風第13号による大雨)

福島県生活環境部一般廃棄物課

令和6年2月5日

1 被害状況(令和5年台風第13号による大雨)



期間降水量分布図(9月8日09時~9日12時)

8日夜から9日朝にかけて断続的に激しい雨や非常に激しい雨、局地的に猛烈な雨

当県で初めて「線状降水帯」を観測

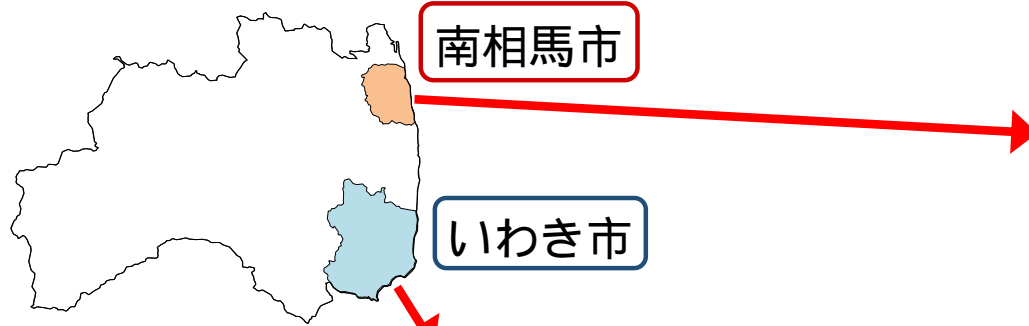
いわき市、南相馬市では、1日で9月の平均雨量に匹敵する大雨

| |
|-----------------|
| 最大24時間雨量 |
| いわき市山田: 194mm |
| 南相馬市原町: 186mm |
| 9月の平均雨量 |
| いわき市山田: 193.6mm |
| 南相馬市原町: 221.8mm |

出典:福島県災害時気象資料(令和5年9月12日、福島地方気象台)

1-1 被害状況(令和5年台風第13号による大雨)

被害写真



南相馬市

いわき市

南相馬市



いわき市



出典:福島県ふくしまぼうさいウェブ

<https://www.pref.fukushima.lg.jp/site/bousai/senjou-chui.html>

県内の仮置場設置数: 6箇所

被害状況や市町村ニーズの把握

- ・9月8日の夜から情報収集を開始
- ・応援(職員、資機材等)や広域処理の必要性について確認

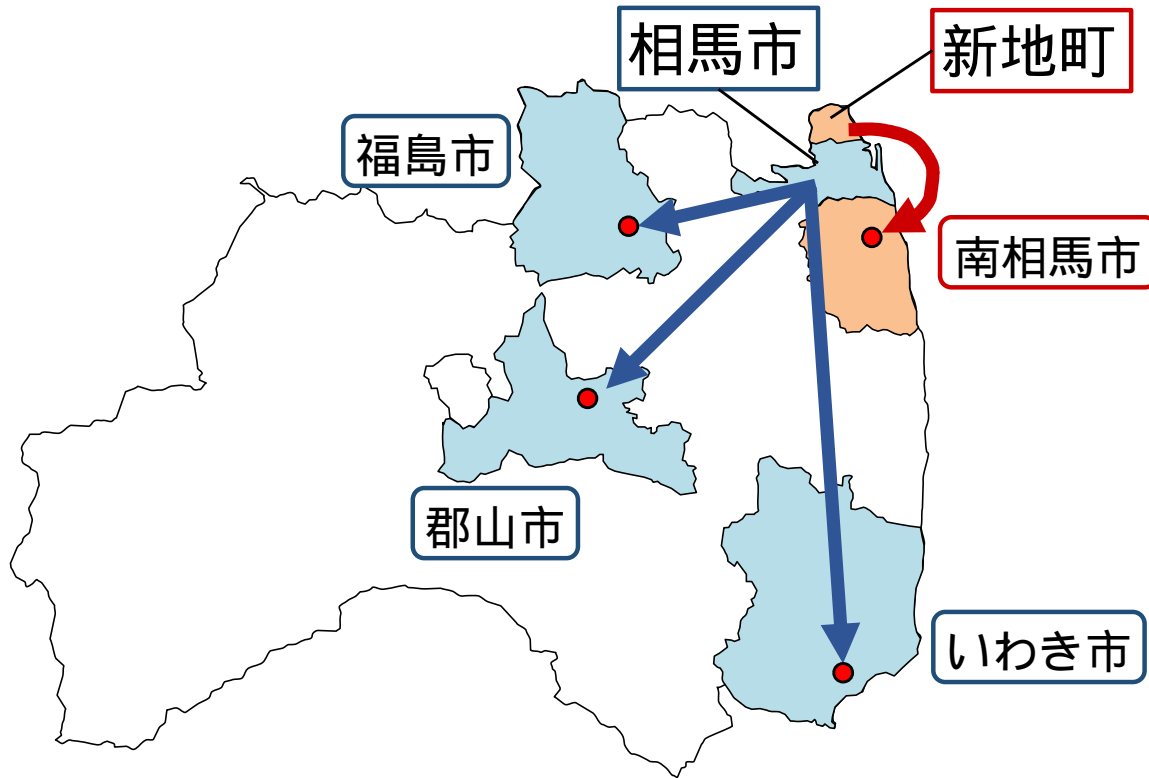
協定の活用等

- ・福島県産業資源循環協会へ協定に基づく要請を実施
(いわき市、南相馬市)
- ・広域処理の要請があった場合に即座に対応できるように各焼却施設へ余力確認等を準備

仮置場等の現地確認

- ・仮置場等を現地確認し、設置・運営に関して助言

相馬市及び新地町の生活ごみに係る広域処理（実績）



- 広域処理までの時系列
- 3/16 発災
 - 3/17 広域処理の要請調整、現地確認～
 - 3/24 広域処理開始（福島市、南相馬市）

搬出先の選定
焼却施設に余力確認



搬出先との調整事項

- ・処理量（〇トン/日）
- ・希望開始日
- ・運搬車両
- ・分別状況
- ・受入可能日時 ...等

福島県災害廃棄物等の処理に係る相互応援に関する協定を活用
「県と県内市町村及び一部事務組合との相互応援協定」

○ 発災当日から被害状況や市町村ニーズの把握や、協定の活用についてスムーズに動き出すことができた

- ・過去の災害対応の経験から、情報収集項目をリスト化(仮置場の開設状況、協定や補助金活用の有無等)し、必要な情報の確認漏れがないように準備をしていた。
発災日から情報収集を開始し、被害状況や市町村のニーズの把握が出来た。
- ・福島県産業資源循環協会とは定期的な打合せや県が開催する災害廃棄物に係る研修会に参加いただく等、平時から情報共有を図っていた。
予め要請見込みがあることを協会へ連絡し、(2市から県への要請を受けた後)速やかに県から協会へ要請ができた。

・平時に備えていたことについて、活用ができた

今後の課題 市町村向けの研修でのシミュレーションや災害廃棄物処理計画の重要性

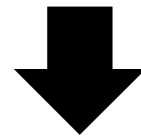
- ・今回災害対応を実施した2市は、
災害廃棄物処理計画策定済み
過去数年のうちに災害を経験
(令和元年東日本台風、令和3年福島県沖地震、令和4年福島県沖地震)
であったため、市町村側の対応も早かったが、それでも仮置場以外への災害廃棄物の集積があった。
- ・災害の経験が少ない市町村や災害廃棄物処理計画を未策定の市町村では、対応がより後手に回ってしまう可能性。

- ・研修を通じた、災害対応についてシミュレーションの必要性
- ・災害廃棄物処理計画の早期策定や実効性の確保について周知

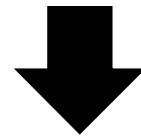
災害廃棄物処理に係る課題

○ 発災当日から被害状況や市町村ニーズの把握や、協定の活用についてスムーズに動き出すことができた

今後の課題 市町村向けの研修でのシミュレーションや災害廃棄物処理計画の重要性



平時の備えの部分で、
「うまくいったこと」及び「今後の課題」を確認



これまでの災害の経験を次に活かせるよう、平時の備えを強化

ご清聴ありがとうございました



福島県ごみ減量化・リサイクル推進
マスコットキャラクター
リーフィンクル